

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:世界史A 校内科目名:世界史A

対象年次:3

2単位

教科担当者: 西田 玲奈

使用教科書・教材

教科書

「新版 世界史A」改訂版(実教出版)

補助教材

「ニューステージ 世界史詳覧」(浜島書店)

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1世界史へのいざない 2諸地域世界の特質 ・東アジアの文明 ・南アジアの文明 ・西アジアの文明 ・ヨーロッパの文明 3諸地域世界の交流 4世界の一体化とヨーロッパ 5アジア諸国の繁栄 6近世ヨーロッパの成長 7近代の欧米社会 ・産業革命と資本主義の確立 ・アメリカ合衆国の発展	○世界の諸地域で発展した文明の形成過程や特質を理解させる。 ○陸と陸のネットワークを中心に諸地域世界の交流を理解させる。 ○近世ヨーロッパの成長を理解させる。 ○ヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化を理解させる。 ○産業革命による経済や社会の変化を理解させる。 ○アメリカ合衆国の独立やフランス革命を通して大西洋世界の政治的変動を理解させる。 ○自由主義・国民主義の高まりと国民国家の形成を理解させる。	1諸地域世界の特質や近世史・近代史の基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	22
2 学期	<2学期> 8ヨーロッパの進出とアジア ・アジア諸国の変貌 ・日本の開国と近代化 9現代社会の特徴 ・第二次産業革命 ・国際的な移民の増加 ・大衆社会の出現 10帝国主義とアジアの民族運動 11二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・第一次世界大戦後の国際秩序 ・世界恐慌とファシズムの台頭 ・第二次世界大戦	○アジア諸国の支配体制の動揺と伝統文化の変容を理解させる。 ○日本の近代化の過程を理解させる。 ○科学技術の発達、企業と国家の巨大化、国家の役割増大による国民統合の進展、国際的な移民の増加、大衆社会の出現などから現代社会の特徴を理解させる。 ○帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と性格、戦争がもたらした世界の変化について理解させる。	1近世・近代史、現代史の基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> 12冷戦の時代 ・冷戦のはじまり ・第三世界の登場 ・1960年代の世界 ・冷戦の終結 13グローバル化する世界 ・市場経済のグローバル化 ・地域統合の動き ・地域紛争の頻発 ・地球社会の歩みと課題 ・持続可能な社会への展望	○冷戦の展開と日本・西欧諸国の動向を理解させる。 ○アジア・アフリカ諸国の独立とアジア・アフリカ諸国が抱える問題、核兵器問題や南北問題を理解させる。 ○市場経済のグローバル化、EUをはじめとする地域統合の動き、世界各地で頻発する地域紛争を理解させる。 ○環境や資源・エネルギーをめぐる問題、持続可能な社会の実現について考えさせる。	1冷戦の展開や現代の世界を取り巻く諸問題についての基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:日本史B 校内科目名:日本史B演習 I
教科担当者: 白土 直人

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「詳説日本史B」(山川出版社)

資料集

「新詳日本史」(浜島書店)

配布プリント等

問題集「ステップアップ日本史」(啓隆社)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1 原始・古代 (1)文化のはじまり (2)農耕社会の成立 (3)古墳と大和政権 (4)推古朝と飛鳥文化 (5)律令国家の成立 (6)平城京の時代	原始・古代から中世(旧石器時代～鎌倉時代)までの日本の歴史を政治・外交・社会経済及び文化史全般にわたり総合的に学習させる。大学受験に対応する力を身に付けるために大学入試問題に取り組ませたり、史料の読解をさせたりして、理解力・応用力を育てる。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	22
2 学期	<2学期> (7)天平文化 (8)平安初期の政治と文化 (9)摂関政治 (10)国風文化 (11)荘園と平氏の台頭 2 中世 (1)鎌倉幕府の成立	古代・中世における日本の歴史を政治・外交・社会経済及び文化史全般にわたり総合的に学習する。公家社会から武家社会へ変容する過程を年表や史資料を活用して理解させる。考査問題は大学入試問題やセンター試験からも出題し、受験への意識付けを行う。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	28
3 学期	<3学期> (2)執権政治 (3)元寇と幕府の衰退 (4)鎌倉文化	鎌倉時代の政治・外交・社会経済及び文化史全般を総合的に取り扱う。鎌倉幕府の誕生と衰退の変遷について理解させるにあたり、調べ学習や発表の機会を設ける。問題演習を取組ませ、大学受験も視野において学習し、理解力・応用力を育てることをねらいとする。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:日本史B 校内科目名:日本史B演習Ⅱ
教科担当者: 白土 直人

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「詳説日本史B」(山川出版社)

資料集

「新詳日本史」(浜島書店)

配布プリント等

問題集「ステップアップ日本史」(啓隆社)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 中世 (1) 室町幕府の成立 (2) 幕府の衰退と庶民の台頭 (3) 室町文化 (4) 戦国大名の登場 近世 (5) 織豊政権 (6) 桃山文化	受験科目として日本史を選択する者を対象に、中世の終わりと近代のはじめ(室町開府～幕末)までの日本の歴史を政治・外交・社会経済及び文化史全般のわたり総合的に学習する講座である。 日本史の問題練習を随時行い、実力を養成する。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	22
2 学期	<2学期> (7) 幕藩体制の成立 (8) 幕府の組織 (9) 大名・朝廷の統制 (10) 農民の統制 (11) 都市と町人 (12) 身分と封建思想 (13) 初期の対外関係 (14) 禁教と鎖国 (15) 江戸初期の文化 (16) 文治政治の展開 (17) 経済の発達 (18) 元禄文化 (19) 幕政改革	受験科目として日本史を選択する者を対象に、中世の終わりと近代のはじめ(室町開府～幕末)までの日本の歴史を政治・外交・社会経済及び文化史全般のわたり総合的に学習する講座である。 日本史の問題練習を随時行い、実力を養成する。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	28
3 学期	<3学期> まとめ	受験科目として日本史を選択する者を対象に、中世の終わりと近代のはじめ(室町開府～幕末)までの日本の歴史を政治・外交・社会経済及び文化史全般のわたり総合的に学習する講座である。 日本史の問題練習を随時行い、実力を養成する。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:世界史演習Ⅱ 校内科目名:世界史演習Ⅱ
教科担当者: 西田 玲奈

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「詳説世界史」改訂版(山川出版社)

補助教材

「ニューステージ 世界史詳覧」(浜島書店)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1近世ヨーロッパの成立 ・近世ヨーロッパ世界の形成とヨーロッパ世界の拡大 ・主権国家の展開 2近世ヨーロッパ世界の展開 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・近世ヨーロッパの社会と文化 3近代ヨーロッパとアメリカ世界 ・産業革命 ・アメリカ独立革命とフランス革命 4欧米における近代国民国家の発展 ・ウィーン体制 ・ヨーロッパの再編と南北アメリカの発展 ・19世紀の欧米文化	○近世ヨーロッパ世界の形成と発展、ヨーロッパ世界の拡大が与えた影響を理解させる。 ○近代国家の原型となった主権国家体制を理解させる。 ○ヨーロッパ諸国の海外進出が与えた影響、近代ヨーロッパの社会と文化の特徴を理解させる。 ○産業革命、アメリカの独立革命、フランス革命が近代社会に与えた影響を理解させる。 ○ウィーン体制と自由主義・ナショナリズムの高まりを理解させる。 ○19世紀の欧米文化を理解させる。	1近世ヨーロッパ世界の成立と発展、近代ヨーロッパ世界の形成と発展、アジア・アメリカ・アフリカ世界の動向、欧米における近代国民国家の発展に関する基本的事項を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 3問題演習の実践状況 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	22
2 学期	<2学期> 5アジア諸地域の動揺 ・アジア諸地域の変容と植民地化 6帝国主義とアジアの民族運動 ・帝国主義と列強の動向 ・アジア諸国の改革と民族運動 7二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・両大戦間の世界 ・第二次世界大戦 8冷戦と第三世界の自立 ・冷戦の展開と第三世界の台頭 9現代の世界 ・グローバル化の進展と現代文明の諸特徴	○アジア諸地域の植民地化、帝国主義時代の欧米列強諸国やアジア諸国の動向を理解させる。 ○第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に与えた影響、ヴェルサイユ体制下の欧米諸国やアジア・アフリカ諸国の動向を理解させる。 ○第二次世界大戦の性格を理解させる。 ○冷戦の展開、第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の動向を理解させる。 ○現代世界の特徴や諸問題を理解させる。	1アジア諸地域の変容と植民地化、帝国主義とアジアの民族運動、二つの世界大戦、冷戦と第三世界の自立、現代の世界に関する基本的事項を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 3問題演習の実践状況 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> 入試直前対策	○大学入試の問題等を解きながら、大学入試問題に対応できる実力を養成する。	演習問題の実践状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:地理演習Ⅰ 校内科目名:地理演習Ⅰ
 教科担当者: 瀬原 大樹

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「新詳地理B」 帝国書院

「新詳高等地図」 帝国書院

補助教材

「新詳地理資料 COMPLETE」 帝国書院

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 中間考査まで 地理情報と地図 ① 地図の種類と歴史 ② 地形図の読み方 自然環境と人間 ① 世界の地形 内的営力・外的営力 期末考査まで ② 世界の気候と気候区分 ③ 日本の地形・気候と自然災害	地理的な見方・考え方及び地理的知識を身につけさせる。「どこに何があるか」を覚えるだけでなく、「なぜそこにそれがあるか」を探究する力を身につけさせる。 教科としての基礎になる、地形や地図について学習した後、世界の国々の自然環境、産業・エネルギー、民族、などについて考察して理解させる。	1 地理的な見方・考え方が身についたか。 2 地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぶ意欲を持ち、地形図等の読図が出来たか。	22
2 学期	<2学期> 中間考査まで 世界の農業 ① 世界の農業地域区分 ② 現代世界の農業の現状と課題 世界の工業 ① 世界の工業地域 ② 現代世界の工業の現状と課題 期末考査まで 人口問題 ① 世界の人口問題 ② 日本の人口問題 都市・居住問題 ① 世界の都市・居住問題 ② 日本の都市・居住問題	地理的な見方・考え方及び地理的知識を身に着けさせる。「どこに何があるか」を覚えるだけでなく、「なぜそこにそれがあるか」を探究する力を身につけさせる。 教科としての基礎になる、地形や地図について学習した後、世界の国々の自然環境、産業・エネルギー、民族、などについて考察して理解させる。	1 地理的な見方・考え方が身についたか。 2 地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぶ意欲を持ち、地形図等の読図が出来たか。	28
3 学期	<3学期> 学年末考査まで 生活文化、民族・宗教 ① 生活文化の地域的差異と画一化 ② 世界の民族・宗教 現代世界の国家と民族・領土問題 ① 世界の民族・領土問題 ② 民族・領土からとらえた日本 ③ 民族と宗教の共生に向けての課題 考査範囲は予定です。 毎日1回は地図帳を開きましょう。	地理的な見方・考え方及び地理的知識を身に着けさせる。「どこに何があるか」を覚えるだけでなく、「なぜそこにそれがあるか」を探究する力を身につけさせる。 教科としての基礎になる、地形や地図について学習した後、世界の国々の自然環境、産業・エネルギー、民族、などについて考察して理解させる。	1 地理的な見方・考え方が身についたか。 2 地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぶ意欲を持ち、地形図等の読図が出来たか。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:地理演習Ⅱ 校内科目名:地理演習Ⅱ
教科担当者:瀬原 大樹

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「新詳地理B」 帝国書院

「新詳高等地図」 帝国書院

補助教材

「新詳地理資料 COMPLETE」 帝国書院

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> ○東アジア・東南アジア ・東アジアの自然と産業、くらし ・東南アジアの自然と産業、くらし ○南アジア・西アジアと中央アジア ・南アジアの自然と産業、くらし ・西アジアと中央アジアの自然と産業、くらし	・前年度までの地理の学習を前提として、問題演習を中心に行うことで地理的な見方・考え方を深めることを目標とする。 ・前年度までの地理の学習で扱えなかった分野の補充学習を行う。 ・地理の基礎から応用までの知識を身につけ、大学入試に対応できる力をつける。	1 受験に必要な地理的知識が身についたか。 2 受験に必要な地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぼうとする意欲があるか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	24
2 学期	<2学期> ○北アフリカとサハラ以南のアフリカ・ヨーロッパ・ロシア ・南北アフリカの自然と産業、くらし ・ヨーロッパの自然と産業、くらし ・ロシアの自然と産業、くらし ○アングロアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア ・アングロアメリカの自然と産業、くらし ・ラテンアメリカの自然と産業、くらし ・オセアニアの自然と産業、くらし	・前年度までの地理の学習を前提として、問題演習を中心に行うことで地理的な見方・考え方を深めることを目標とする。 ・前年度までの地理の学習で扱えなかった分野の補充学習を行う。 ・地理の基礎から応用までの知識を身につけ、大学入試に対応できる力をつける。	1 受験に必要な地理的知識が身についたか。 2 受験に必要な地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぼうとする意欲があるか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> ○大学入学共通テスト対策 ・大学入学共通テストを想定して、「地理A・B」の各分野について問題演習を行う。 ○私立大学入試対策 ・各自の志望大学の入試傾向に応じた問題演習を行う。	・前年度までの地理の学習を前提として、問題演習を中心に行うことで地理的な見方・考え方を深めることを目標とする。 ・前年度までの地理の学習で扱えなかった分野の補充学習を行う。 ・地理の基礎から応用までの知識を身につけ、大学入試に対応できる力をつける。	1 受験に必要な地理的知識が身についたか。 2 受験に必要な地理的技能が身についたか。 3 自ら進んで学ぼうとする意欲があるか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	18
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:世界文化史 校内科目名:世界文化史
教科担当者: 関矢 勝秀

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材
世界文化史の資料集
文化史関連の諸資料等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1、代表的な文化遺産を通じて世界の諸地域の文化を概観する。 2、先史・古代から近代までの世界の諸地域の文化について多角的・総合的に把握・理解する。	○世界文化遺産を通じて世界の諸地域の様々な文化を理解させる。 ○先史・古代の文化から近代までの文化について絵画・建築などの芸術を中心に多角的・総合的に把握・理解させる。	1 出欠状況・学習意欲 2 課題等の提出状況 3 発表・レジュメの内容 4 定期考査 以上を総合的に判断して評価する。	22
2 学期	<2学期> 3、世界の諸地域の宗教や思想について多角的・総合的に把握・理解する。 4、近代における国家・社会と文化の関係を多角的・総合的に把握・理解する。	○アジアやヨーロッパなどを中心に世界の諸地域で発展した宗教や思想について多角的・総合的に把握・理解させる。 ○欧米で発展した主権国家や国民国家を中心に近代における国家・社会と文化の関係を多角的・総合的に把握・理解させる。	1 出欠状況・学習意欲 2 課題等の提出状況 3 発表・レジュメの内容 4 定期考査 以上を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> 5、現代の文化について多角的・総合的に把握・理解する。 6、多文化共存について考える。	○現代文化について大衆文化などを中心に多角的・総合的に把握・理解させる。 ○多文化共存について考える。	1 出欠状況・学習意欲 2 課題等の提出状況 3 発表・レジュメの内容 以上を総合的に判断して評価する。	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科: 公 民 科目: 政治・経済 校内科目名: 政治・経済演習
教科担当者: 小林 正伸

対象年次: 3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「政治・経済」(東京書籍)

資料集

「最新政治・経済資料集2022」(第一学習社)

問題集

「ニューコンパスノート 政治・経済」(東京法令)

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> <中間考査まで> 2学年次で学習した内容を復習する ・日本国憲法の制定と基本原理 ・基本的人権の保障 ・国会と立法 ・内閣と行政 ・裁判所と司法 <期末考査まで> ・租税と財政 ・日本経済の発展と課題 ・経済主体と経済の循環 ・市場経済の機能 ・国民所得と経済成長	1 授業を通じて、政治・経済の受験勉強を家庭学習の習慣の定着化を図る。 2 政治・経済の基礎から応用までの知識・考える力を身につけ、大学入試に必要な学力を身につける。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	22
2 学期	<2学期> <中間考査まで> 国民経済と国際経済 ・貿易と国際収支・経済対立と国際協調 ・国際経済における日本の役割 <期末考査まで> ・中小企業の現状と課題 ・農業・食糧問題 ・公害防止と環境保全 ・資源・エネルギー問題 ・物価と消費者問題 ・労働と社会保障 労使関係と労働市場 社会保障と社会福祉	1 政治・経済の受験問題の傾向を把握し志望校に備える。 2 記述、小論対策も取り入れる。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	28
3 学期	<3学期>各生徒の進路希望に対応した準備をする。 ・問題演習及び総復習・入試直前対策 政治および国際政治の分野もふまえながら復習する。	1 政治経済の各単元について、ポイントを復習し、受験、進路決定後に備える。 2 広い視野から、国内政治、国際政治、国際経済について考察する。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	20
合計				70

令和5年度年間授業計画

教科:公 民 科目:倫 理 校内科目名:倫 理
教科担当者: 小林 正伸 佐藤 義弘

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「高校倫理」(実教出版)

資料集

「テオーリア 最新倫理資料集」(第一学習社))

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定 授業 時数
1 学 期	<1学期> <中間考査まで> 1 青年期の発達とその諸問題 (1) 青年期の特徴と心理 (2) 現代の青年と自己探求 (3) 欲求と適応機制 (4) アイデンティティの模索と青年期の課題 <期末考査まで> 2 源流思想 古代ギリシアの哲学・思想 キリスト教の成立と展開(イスラム教含む)	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	22
2 学 期	<2学期> <中間考査まで> 古代インドの思想(仏教の成立と展開) (4) 古代中国の思想(儒家思想・道家思想他) <期末考査まで> 3 近現代の西洋思想 (1) ルネサンスと宗教改革 (2) 近代科学の成立とその考え方 (3) モラリストと啓蒙主義 社会契約説と市民革命 (5) ドイツ啓蒙主義と観念論	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	28
3 学 期	<3学期> (6) イギリス功利主義 (7) 社会主義の思想 (8) 実存主義思想	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	20
合 計				70

令和4年度年間授業計画

教科: 公 民 科目: 倫 理 校内科目名: 倫理演習
教科担当者: 小林 正伸

対象年次: 3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「高校倫理」(実教出版)

資料集

「テオローリア 最新倫理資料集」(第一学習社))

「高校倫理サマリーノート」(実教出版)

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学 期	<1学期> 1 日本の思想 (1) 日本の風土と伝統 (2) 日本の仏教思想 (3) 儒教の受容と儒学の展開 (4) 民衆の思想と国学の形成 (5) 西洋思想との出会い 2 近現代の西洋思想 (6) イギリス功利主義 (7) 社会主義の思想	1 授業を通じて、倫理の受験勉強が家庭学習の習慣となるよう定着化を図る。 2 倫理の基礎から応用までの知識・考える力を身につけ、大学入試に必要な学力を身につける。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 定期考査の合計点 4 小テストの合計点 5 課題・プリントの内容と提出状況	22
2 学 期	<2学期> (8) 実存主義思想 (9) プラグマティズムの思想 (10) ヒューマニズム思想 3 現代の諸課題と倫理 (1) 生命倫理 (2) 環境倫理 (3) 家族・地域社会 (4) 情報社会 (5) 異文化理解 (6) 人類の福祉と課題 問題演習及び総復習 ; 入試直前対策	1 授業を通じて、倫理の受験勉強が家庭学習の習慣となるよう定着化を図る。 2 倫理の基礎から応用までの知識・考える力を身につけ、大学入試に必要な学力を身につける。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 定期考査の合計点 4 小テストの合計点 5 課題・プリントの内容と提出状況	28
3 学 期	<3学期> 問題演習及び総復習 ; 入試直前対策	1 授業を通じて、倫理の受験勉強が家庭学習の習慣となるよう定着化を図る。 2 倫理の基礎から応用までの知識・考える力を身につけ、大学入試に必要な学力を身につける。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 定期考査の合計点 4 小テストの合計点 5 課題・プリントの内容と提出状況。	20
合計				70